

高等学校 地理歴史科（世界史B） 学習指導案

指導者 藤原 隆範

- 日時** 令和2年12月4日（金） 第1限 8:40～9:30
- 場所** 第2社会科教室
- 学年・組** 高等学校III年選択「世界史B」 ア・イ組 合併クラス
- 単元** 主題学習（世界史学習の総まとめ）
- 目標**
1. 適切な主題に対して、歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究し、解決する資質・能力を育成する。
 2. 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に、主体的に生きる資質・能力を育成する。
 3. 平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な、公民としての資質・能力を育成する。

指導計画 1時間完結型 主題学習

本時 ミクロからマクロへ — 「虫の目」で史料を、「鳥の目」で時代区分を—

授業について

「探究」とは、生徒自らが“道具となる知識”を用いて“結果としての知識”を獲得していく過程と考え、授業をつくる。「探究」のために必要なことは、“視点”と“研究法”である。“視点”とは「分析的な概念」であり、それを「分析的な問い」に転換させて、仮説をつくる。授業の前半は、生徒に史料を読ませ、それを通して「問い」を立てさせ、そこから「仮説」を獲得させることを目標とする。宋の都開封を描いた「清明上河図」を読解させるなかで、次のような問いが成立する。①開封で、商業活動が盛んになったのはなぜか。②唐の都長安は、皇帝や貴族が担い手である政治都市であったが、宋の都開封は庶民が担い手である商業都市とはいえないか。③唐と宋では、都を比較すると大きな違いがみられるが、他に大きな違いや隔たりはないか。これらの「問い」を追求する過程で、唐と宋の間には大きな時代の隔たりがあり、その間、大きな変革がみられたという「仮説」（＝唐宋変革論）が得られる。授業の後半では、歴史家が歴史的事象を説明し、意義づけるときの“研究法”に焦点をあてる。歴史家は史料を読解し、分析し、解釈して、論を立てる。どの論の説明力が大きいかで、論争が行われる。授業の後半では、唐宋変革論と、それに基づく時代区分に関わる、京大系の学説と東大系の学説を比較する。京大系の学説は、宋代を近世の始まりと考え、東大系の学説は宋代を中世の始まりと考える。双方の学説の根拠は何か、どちらの学説が、より説明力が大きいか。本来ならば、生徒自らに探究させるべきであるが、時間の制約で、ここは教師の説明が中心となる。歴史家は、史料から個々の事実を丹念に集め、それを集積させる中で仮説を立て、論として発表する。歴史における「探究」とは、「虫の目」を使って史料を読み取り、事実を確定させるミクロ的手法と、「鳥の目」を使って仮説を立て、論を展開するマクロ的手法の、2つの視点をもつ。限られた1時間であるが、このような歴史における「探究」の手法やプロセスを学ばせたい。

題目 ミクロからマクロへ — 「虫の目」で史料を、「鳥の目」で時代区分を—

本時の目標

1. 「虫の目」で史料を読み、問いを立て、仮説を設定させる。
2. 「鳥の目」で時代の相違を考察し、複数の説の妥当性を議論させる。

本時の評価規準（観点）

1. 自他の意見の相違を正しく理解し、それを踏まえ、意欲的に課題の解決に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）
2. 時代区分に関わる学会の論争点を正しく踏まえ、異なる様々な意見の論点整理をおこない、自己の意見を明確に主張することができる。（思考・判断・表現）
3. 絵・地図・文書・表等の史料・資料から、唐代や宋代の歴史的事象を、正しく読み取ることができる。（技能）
4. 自己の意見の形成のもとになる、唐代や宋代の歴史的事象に関わるデータベースが正しく形成されている。（知識・理解）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 課題の提示	教師の話聞き、本時の「学習のねらい」を共有する。	これまでの既習事項から具体例をあげ、問題提起を行う。
展開 1. 「清明上河図」 （宋の都 開封を描いた絵巻物） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">感情移入する・読み取る</div>	1. 「清明上河図」を読み取る。 2. 読み取った内容を発表する。 3. 発表された内容を吟味する。 4. こられの活動を踏まえ、宋代の特色は何か、まとめる。	都開封の様子から、商業都市の成立を読み取らせ、唐代と比較して、経済力が大きく伸長したことを理解させたい。
2. 唐代と宋代の比較 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 100px;">比較する</div>	1. 唐と宋の都の相違を調べる。 2. 唐代と宋代の間にみられる大きな変革とは何か、考える。 3. 唐と宋の違いについて、政治・支配層・官吏任用制・税制・労働力・対外関係・都市・文化等の観点から、比較し整理する。	唐と宋は、政治・支配層・官吏任用制・税制・労働力・対外関係・都市・文化等、さまざまな点で大きな相違があり、この間、大きな断絶、時代の変革があったことを理解させたい。
3. 唐宋変革論	唐代と宋代の間には大きな断絶があるとする、唐宋変革論についてまとめる。	
4. 中国史における時代区分 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 100px;">まとめる</div>	唐代から宋代への時代の変化について、京大系の学説は、宋代は近世の始まりであるとし、東大系の学説は、中世の始まりであるとする。それぞれの根拠を吟味する。	京大系の学説と東大系の学説の相違、およびその根拠については大学で学ぶべきことであり、時間の制約もあって、このパートは教師主導の学びとなる。
終結 歴史における探究とは	「虫の目」で行うミクロ的探究と「鳥の目」で行うマクロ的探究。	事実に基づき解釈を行っていく、探究の大筋をおさえたい。
備考		